



# 春

あつ、と思う時がある。

外を歩いていて、春の香りを感じた時だ。

山に行っても海に行っても、またあぜ道を散歩している時にも、固く張り詰めたものではなく、柔らかに少しほころびたような空気が体に入ってきた時、春の香りを感じる。



福井町 広浦 雅俊さん

その香りは、自分の懐かしい春の景色をよみがえらせる。小学校を卒業した時の謝恩会の料理。中学生となり、恐る恐る開いた英語の教科書。原付や車の免許を取った高校時代や、先輩と車で寝泊まりしながら旅した大学時代。そして、夢を追いかけて上京する時の故郷を離れたあの瞬間。どれも空は晴れ渡り、まぶしい景色が広がっていた。

さまざまな記憶が香りともよみがえり紡がれていく。そして、自分のストーリーを振り返りながら大きく息を吸う。この町であと何回この季節を迎えるのだろうか。日々を過ごす中でどんな物語が生まれていくのだろうか。そんな事を思いながら。立ち止まって未来を想像すれば、新しい自分に出会えそうで心が躍る。過去を覗けば、何も成長できていない自分を嫌に思う。人がどんな気持ちになろうとも、山や海そしてあぜ道は、春の香りを選んでくる。

い景色が広がっていた。

さまざまな記憶が香りともよみがえり紡がれていく。

そして、自分のストーリーを振り返りながら大きく息を吸う。

この町であと何回この季節を迎えるのだろうか。

日々を過ごす中でどんな物語が生まれていくのだろうか。

そんな事を思いながら。立ち止まって未来を想像すれば、新しい自分に出会えそうで心が躍る。

過去を覗けば、何も成長できていない自分を嫌に思う。

人がどんな気持ちになろうとも、山や海そしてあぜ道は、春の香りを選んでくる。

出会いや別れ、不安や希望、その全てを包み、自然、動物、人、その全てが今すぐ動き出しそうな季節。

春は美しい。ちなみに私の好きな季節は冬です。

次は、日開野町の丸山達郎さんをお願いします。

次は、日開野町の丸山達郎さんをお願いします。

次は、日開野町の丸山達郎さんをお願いします。

次は、日開野町の丸山達郎さんをお願いします。

次は、日開野町の丸山達郎さんをお願いします。

次は、日開野町の丸山達郎さんをお願いします。

# 市民文芸

## 短歌

阿南市文化祭短歌大会選

佳作

入谷五十鈴 痩せ痩せて酷暑に耐えし老犬とゆつくり歩む

佳作

小西 千恵 夕日の花野

佳作

風たてば枝垂れの葉先ほの揺れておはぐる蜻蛉二匹の舞い立つ

佳作

打樋 光子 生涯を教育に捧げし父にして叙勲の章が胸に

輝く

勢井 恒子 吾が肩へ触れんがばかり揚羽蝶墓地に飛び交う母の命日

佳作

矢野 道子 隣家より時時間こゆピアノ曲今日はショパン

佳作

高尾 久枝 足さすり腰撫で励みし稲刈りも終えて一息空を見上げる

佳作

横山みつ枝 炎天下熱き砂地につる曳きて一つ生命を瓜が

佳作

山西 成彬 雨は降る雨は降る降る逝きし人逢いたき人の

想いは巡る

佳作

山西 成彬 雨は降る雨は降る降る逝きし人逢いたき人の

想いは巡る

佳作

山西 成彬 雨は降る雨は降る降る逝きし人逢いたき人の

想いは巡る

山西 成彬 雨は降る雨は降る降る逝きし人逢いたき人の

## 俳句

阿南市俳句連合会選

品川 重晴

南国の児に驚きの余寒あり

喜多 啓吉

河野 柳史

三好美代子

西條 佳恵

車田マサ子

萩原 陽子

竹谷 由美

佐々木八千代

奥田 蒼郎

早春も青春に似て眩しかり

重なりて一重も八重も落椿

うぐいすや山の公園朽ちしまま

早咲きの梅は大樹に屋敷跡

春寒し積み置く本の崩る音

枝垂梅蕾ふくらむ今朝の雨

わだかまり解けて安らぎ寒明くる

一山を背負ひ札所の冬ぬくし

## 川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

詐欺ニュース迷惑ですと驚が啼く

里がえりほつと安心母の顔

枯蟻蟻悟りひらいた姿して

百段に挑む米寿の初詣

すりガラス程度に見える仲でいい

野口 吾朗

佐藤つたえ

西田 修身

臣守 愛香

滝川 太郎